

# 川崎哲也『サクラ図譜』

## 出版記念原画展を観る

加藤良一 May 15, 2010



世の中、どんなご縁があるかわからないものです。

男声合唱プロジェクトYARO会の一員である男声合唱団メンネルA.E.C(埼玉県上尾市)の新島聰幸さんから頂いた一通の案内状が、あらたな植物の世界へと導いてくれました。

「川崎哲也『サクラ図譜』出版記念原画展」が、平成22年(2010) 5月1日～5日までJR線「さいたま新都心駅/北与野駅」の近くにあるギャラリー書楽で開催されました。新島聰幸さんからのご案内で一も二もなく駆けつけました。

植物学者の牧野富太郎博士の『牧野新日本植物図鑑』という有名な図鑑がありますが、その巻頭ページを飾る「やまもも」*Myrica rubra Sieb. et Zucc.*の細密画を描かれたのが川崎哲也さんです。

「やまもも」は、牧野富太郎博士が亡くなる数日前に川崎哲也さんが書き上げた作品ですが、これを病床でご覧になった牧野博士は、「見よ見よ！ 出版するぞ」と叫んだと朝日新聞で報じられています。

# 遺作のサクラ咲き誇る



●「御衣黄」(1956年)  
●「江戸」(1953年)  
=いずれも新島依子さん提供



川崎哲也さん

教師・研究者 川崎哲也さん描く

さいたまで  
さきょうから

## 精密な原画90点展示

原画は、川崎さんの作品を  
ましめだ「サクラ図譜」(アボ  
フク社)が3月に出版されたの  
を記念した。『江戸』『御  
衣黄』『開田』など、約40種90  
点に及ぶ作品を展示する。全体  
だけではなく、花びらや葉、  
茎などといった各部分の細部な  
面が描かれている。

川崎さんは、宇都宮農林専門  
学校(現宇都宮大学農学部)を卒業  
する牧野博士に師事した。

旧浦和市の中学校で理科や技術  
の教諭を務めながら研究に打ち  
込んだ。特に植物標本の分類や  
鑑定に注力し、多くの新種を見  
つけ命名している。「日本の  
桜」を出版するなど、急速する  
まで数々の功績を残した。

原画は、川崎さんの作品を  
ましめだ「サクラ図譜」(アボ  
フク社)が3月に出版されたの  
を記念した。『江戸』『御  
衣黄』『開田』など、約40種90  
点に及ぶ作品を展示する。全体  
だけではなく、花びらや葉、  
茎などといった各部分の細部な  
面が描かれている。

川崎さんは、宇都宮農林専門  
学校(現宇都宮大学農学部)を卒業  
する牧野博士に師事した。

川崎さんは、吹奏楽の癡狂に  
ち心力した。市中学校吹奏楽連  
盟設立の中心となり、吹  
奏樂部を始めた同種連盟では、吹  
奏樂部を運営する牧野克也さん  
らを教えた。

生前、川崎さんは自分のいと  
孫の新島依子さん(46歳)は「遺稿  
も含め参列者は皆、名前はお能  
に難かされた」と懐かしい様  
な顔を知つてもらつた。依子  
さんがはじめた通譜文集が終  
り、原画の存命中知りたが

全国でも著名なサクラ研究家として知られ、2002年に病気のために33歳で世界一の日浦和市の元中学校教諭、川崎哲也さんが残したサクラの原画展が、1日から31日まで市中央図書館で開かれる。専門家から「写真より精密」と評される絵は、ボタニカルアートとしても楽しめる。

2010年5月1日 朝日新聞

(新聞の切り抜きを新島さんより頂きました↓)



きのうの牧野博士 博士の次男牧野百世氏撮影

寧月 三 未午 月曜 (夕刊)

昭和31年7月13日

## 故郷のやまももの標本必ず出版

牧野翁 病床で張切る

「これ見よ、これ見よ」――十  
二日朝、突然ベッドから半身を

起さんばかりに大音をはりあ  
げて、周囲の人を驚かせたの  
は、牧野博士――さしきげた手  
には、一枚のきれいな写生図が

と題えないほど輝いていた。  
物だった裏山の「やまもも」を  
眺もうと話合った。その「や  
まもも」はまだ枝のままで、  
飛行便で練馬区東大泉町五五七  
の博士の自宅に送られてきた。

博士は大喜び。どうしてもこれ  
を寄して、いま編集中の植物図

この絵は実物大の「やまもも」  
の写生図――先月末、「牧野博  
士重体」の知らせに、博士の

故郷高知市丸ノ内高校の金生徒  
は、博士が小さいころから大好  
きだった裏山の「やまもも」を  
見ただ。その「やまもも」はまだ  
枝のままで、飛行便で練馬区東大泉町五五七  
の博士の自宅に送られてきた。

博士は大喜び。どうしてもこれ

を寄して、いま編集中の植物図

を入れるんだ」と浦和市高

砂町の画家川崎哲也さんに写生

を頼んだ。

その絵が出来上ったのである。

早くこれを本にせんぎやなら

んよう」そういう博士のかたわ  
ら、博士の次女鶴代さん(55)

は、「こんな希望があるなんじ

ら、生きているのでしょうか」と  
うれしそうだった。

たまたま私の手元にもこの『**牧野新日本植物図鑑**』がありました。昭和48年12月発行のもので、もう色あせ始めています。

この図鑑について私の大学時代の研究室の先輩に話したところ、その図鑑なら自分も持っている、あの「やまもも」を描いた方と私が遠いとはいっても縁があるとは驚いたとのことで、あらためて日本を代表するすごい図鑑であることを再認識しました。

### 川崎哲也氏 プロフィール

サクラ研究の第一人者**川崎哲也**さんは、昭和4年(1929)名古屋生れ、宇都宮農林専門学校(現宇都宮大学農学部)卒業の後、教職(中学校教諭)につき、学生の指導にあたりながら**吹奏楽部指導教官**を長く務めた。そのかたわら**牧野富太郎**、サクラ品種収集家**佐野藤右衛門**の教えを受け、生涯を教職とサクラの研究に捧げ、サクラ栽培品種の鑑定家としても活躍しました。平成14年(2002)他界されました。

**川崎哲也**さんの妹さんが私の合唱仲間**新島聰幸**さんの奥様**新島依子**さんです。兄の遺志を継いで原画展の開催に漕ぎつけました。会場となったギャラリー書楽は、なんと始まって以来の来客数だったそうです。ご盛会おめでとうございます。

 Back

虫めがねTopへ

 Home

Home Pageへ